因島高校を支援する会

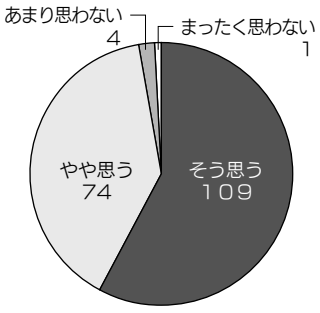
発行
因島高校を支援する会
会長　竹中啓修
事務局：因島高校ＰＴＡ
☎08452-4-1281
題字　竹中啓修

因島高校学校評価アンケート

（市内中３生保護者対象に実施）

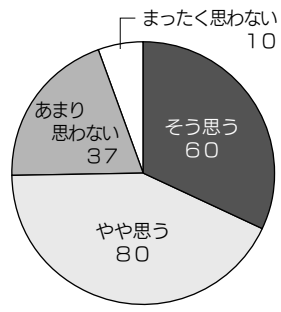
因島高校では、このほど、市内中学校３年生生徒の保護者を対象に、アンケートを実施しました。
保護者243人中、193人から回答が寄せられ、関心の高さが感じられます。
アンケートの集計・分析の資料は、因島高校からいただきました。

①施設設備が充実していると思いますか



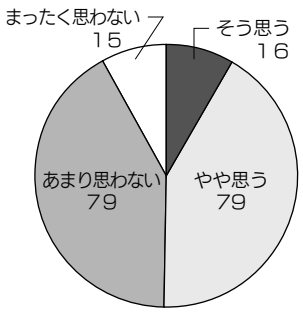
校舎は、全面新築建て替え（一部格技場は残した）で昨年度落成したばかりだから当然と言える。アンケート対象は中学３年生の保護者であるが、校舎見学などのいくらかの機会に実際見ての評価が多いと思われる。

②教育内容（特進クラス・サテライン講座など）に興味がありますか。



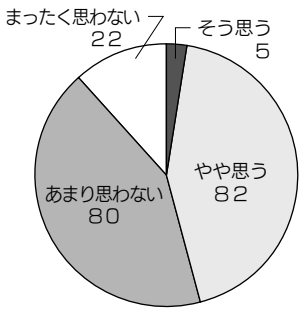
教育内容の認知度などを問うたものだが75％もの人が興味を持ち、どういう内容なのかまたどんな成果が出るのかなど、高い注目度をもっている。近隣の学校との比較がなされる大事な項目だと言える。

③情報発信なども含めて開かれた学校のイメージがありますか。



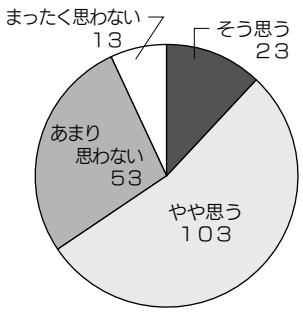
「支援する会」の会報が島内全戸配布ということで、良いこと悪いことひっくるめて高校の細かな情報が発信されているが、開かれたイメージは50％にとどまった。この数値は情報だけでなく、もっと高校が生活の中で身近な存在になることへの期待の現れとも見ることができる。

④因島高校の生徒は、社会のルールを守り、基本的な生活習慣が身についていると思いますか。



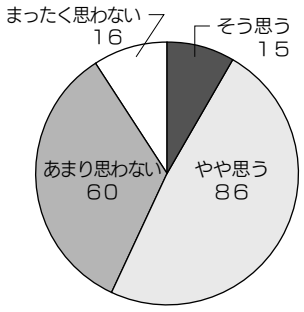
プラスイメージが50％を切ったのは、唯一この質問だけであるが、これは自転車のマナーの悪さへの指摘であろう。現在、道路の拡張工事も部分的には行われてはいるものの、全般的に狭い道路をたくさんの高校生の自転車が走ること自体に危険性が感知されるだろう。そういう中での並進や二人乗りは、たとえ一部の生徒であるとはいえ大変な迷惑となっている。生徒に猛省を促し、教師も保護者も一体となり対処したい。

⑤服装や頭髪が良くなってきたと思いますか。



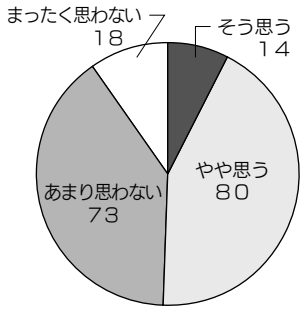
今年度、相当力を入れて指導してきた服装・頭髪の件は、はっきり成果が出ていると判断したい。まだまだ意識の低い生徒がいるので、目立つところはあるが全体的に見ると相当改善してきている。ピアスや爪、化粧、肌着の色などの指摘があったが、これこそ保護者の協力なくしてできることではない。常に新たな基準と方法論を教師全体で確認しながら、日常的に生徒の意識に対峙する姿勢をものにしていかねばならない。

⑥進学や就職など進路指導に力を入れていると思いますか。

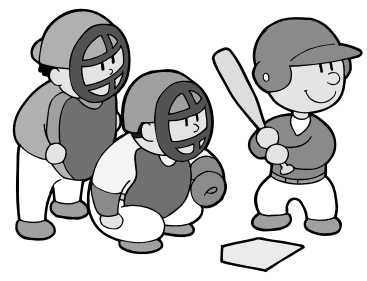


進路指導について教師の指導力のばらつきについて指摘があった。進路判定会議を頻繁に開いて、生徒ひとりひとりの進路を皆で確認しながら進めている。しかし、生徒自身も進路については、時々刻々考えが変化していくので相談の過程で担任と進路担当で意見の食い違いもないことではない。「何をしようか？先生考えて！」という依頼心の強い生徒が多い。本校の進路指導は、懇切丁寧さではどこにも劣るものではないと自負しているが、この丁寧さがかえって生徒を鍛えないということもある。進路については、特に本人や保護者からの積極的な教師への働きかけも必要と思われる。

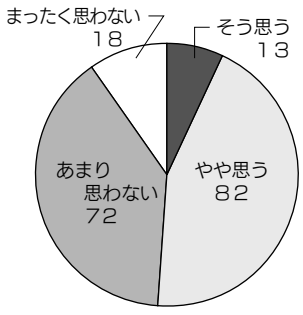
⑦行事やクラブ活動を積極的に推進していると思いますか。



回答者が中学校３年生の保護者のため、それが長子であった場合ほとんど高校の学校行事などへの参加経験はない。そんな中で吹奏楽部などの活動は比較的良く浸透している。野球、サッカー、体操などを中心に他のクラブの宣伝が、不十分。新聞などでその日常活動や成績などの紹介を地道に行いたい。試合の時などの応援態勢の確立も急務である。

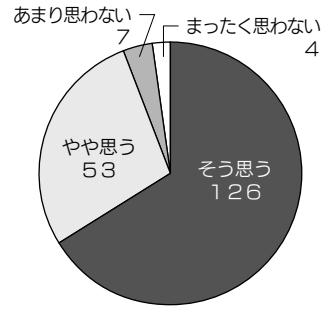


⑧地域に信頼される学校になってきていると思いますか。



信頼度の部分でも進学率への言及は多いが、中でも「支援する会」の会報を読んでの意見が多い。会報の記事は叱咤激励の内容が多く、統合の過程の中で生じた軋轢なども視野に入れ編集されてきた会報の性格上、高校としても耳の痛い内容ということになるが、記事としてやや説明不足のものもある。表現上の問題で誤解を招くこともある。地域の信頼を勝ち取るためにも、外部の団体と連携を密にし、積極的かつ確実な情報発信をしたい。

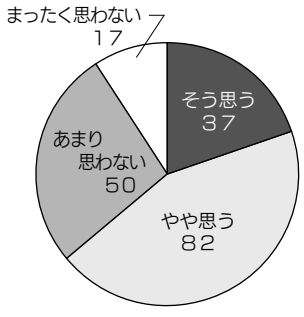
⑨島に一つの高校だから大切にしたいと思いますか。



94％もの保護者が、高校を大切にしたいとの回答はありがたいことである。橋ができたことや広域合併など、時代の推移の中で多くの公共施設が三原尾道へと移転し、高校は県の数少ない施設になった。

島の文化的な施設、そして最高学府としての高校。島にひとつの高校。生徒の、そして教員の意識をもっと高めて教育レベルの維持・底上げなど多くのことに取り組んでいかねばならない。

⑩因島高校は子供を入学させてもいい学校であると思いますか。



「そう思う」「やや思う」が64％という回答も「よくここまでいただいた」と思うと同時に、本校の現状をよく現していると反省もしたい。そこで36％のマイナスイメージのうち27％が「あまり思わない」であるが、こう回答した保護者のイメージをプラスイメージにどう変えていくか。課題は多い。生徒確保につながる取り組みを、今後積極的かつ大胆に展開していきたい。

因島高校の発展のカギは？

ＰＴＡ会長
岡野　長寿

今、因島高校は再生への道を一歩一歩進んでいる。その歩みを速めるカギはなんだろう。「施設設備の充実」だろうか？「ＮＯ」である。こんなものは二の次だ。「服装や頭髪などがきちっとしている」だろうか？因島高校の大きな課題としてＰＴＡをはじめ先生方の努力が向けられ、この点に関する限りは、大きな前進が図られ、いわゆる「七色の髪」は過去のものとなった。しかしこれだけでは足りない。

学校が実施したアンケートの中には、「自分が母校であったときは、上位10％にいれば、国立大に何とか合格できるという時代でした。そのギャップを気持ちが受容できません。」このギャップを埋めること、これが、かつての因島高校の輝きを取り戻し、市民、いや近隣島嶼部の方たちを含めた因島高校ファンの信頼を取り戻すカギだろう。

因島高校が昨年特進クラスを設置した。特進クラス2年生1年生が大きな前進の傾向を作り出せるかが重要だ。今後特進クラス生徒は、サテライン講座の受講を当然受ける雰囲気を作ることや、当初は特進クラスに入ってなくても、伸びる可能性、意思を持つ生徒を発掘し特進クラスに編入させるなど、先生方の柔軟かつ果敢な指導が求められる。

このようにいうと「競争を助長する悪しき考えだ（競争至上主義）」と批判する意見があるかもしれない。そうではなく、私が言いたいのは、伸びる可能性をもった芽を摘んではならないということだ。その意味では、クラブ活動においても、小学校や中学校で活躍していた子供たちが、高校に入るとクラブ活動から遠ざかり、回り道をしてしまう。

小中時代には、地元に根ざした指導者に恵まれている。が、高校にはあまりにも島外の先生が多く、これではいくら先生が資質に優れていたとしても、条件が悪い。県教育委員会は、もう少し地元の先生を増やす人事をしてほしい。勉強もクラブ活動もできる子供の育成に力を注いでほしい。

因島高校は総合学科だから、基礎的学力の到達点を大きく異にする生徒を有するため、より工夫が要求される。特進クラスは、選別教育というより一人一人の到達点にそって可能性を最大限伸ばす因島高校の実情にあった工夫だと捉え、自信をもって活用することが必要だろう。

このことで、教師集団がブレていては、本来因島高校教師集団がもっている教育力を最大限生かすことはできない。そしてそれを最大限生かすことなしには、因島高校発展のカギである「上位10％にいれば国立に」という市民の潜在的要求を満たすことはできない。その意味でカギを握るのは、ＰＴＡでもなく、学校管理者でもない。教師集団の「民主的力量」なのだ。

保護者意見欄

①施設設備が充実

◎新しい校舎になって、施設・設備が充実している。
◎学校は新しいのできれいですね。
◎施設より中身の充実、生徒主役、自主性を望む。

②教育内容に興味がある

◎特進クラスは学力低下をくい止め、向上心を養うためにも良いことと思う。
◎特進クラスはすばらしくみな頑張っている様子で平均点も高いと聞く。
◎選択科目は自分で選んだ授業を楽しめるのは良い。
◎先生たちが生徒を熱心に教えてくださる態度がとてもすばらしい。
◎努力されていることはよく分かりますが、あまりにも学力の差があることで、先生方の指導にもう一工夫いるのではないかと思う。

③開かれた学校イメージ

◎因島高校の新聞を市民の人に読んでもらうのは、とても良いことです。
◎学校が新しくなり開かれたようで、行事などの時に行きやすくなった。
◎開かれた学校にするには、教師のエリート意識の改善が必要だと思う。

④社会のルールが守れる

◎印象は悪くありません。みんないい表情をしていると思います。
◎交通指導など積極的にされていると思います。
◎挨拶などきちんとしてくれる子供さんが多くなりました。
◎自転車で二人乗りはしているし、二・三列で通るし、車が来ても端に寄らないし、マナーが全然なっていません。

⑤服装や頭髪が良くなっている

◎前に比べ服装、頭髪の乱れがなくなってきているし、遅刻している生徒も減っているように見える。
◎先生方や保護者が頑張って指導されておられると思います。
◎服装や頭髪だけでなく、生徒一人一人の生活態度などもっと立ち入った方がいいと思う。
◎女子の化粧などもっときびしくしてほしい。

⑥進路指導に力

◎進学に関して一人一人に対応している。
◎得意科目をさらに伸ばすために個人的に声をかけ関心を示してくださっている。
◎教師と生徒との信頼関係がまだまだ築かれてないように思える。進路指導にしても積極性が感じられない。
◎進学を希望している生徒について、選択を間違って自分の進みたい方向にいけなかったと言うことを聞きます。先生の間違いのない指導が足らないと思います。

⑦行事やクラブ活動推進

◎吹奏楽部の定期演奏に行き、因島高校は悪いとよく言われているけれど、こんなに頑張っている生徒がいるんだと感動しました。自分の子供にもすすめたくらいです。
◎学校の行事などがあると、みなさん積極的に活動していると思います。
◎クラブ活動を積極的に推進しているようにみえない。部活をしていない生徒が多いように感じる。
◎クラブ活動の様子を見ると、もう一つ魅力がない。子供にも問題はあるだろうが、指導者不足ではないでしょうか。

⑧地域に信頼される学校

◎高校生活に価値観を認めないような者を入学させる必要もなく、無理に卒業させる責任もない。最近の学校の方針には賛成です。
◎支援する会の役員の子供のほとんどが因島の島外の高校に進学している。こんな会ではだめだ。
◎因島高校を支援する会の会報も読んで、がっかりすることが多い。

⑨高校を大切にしたい

◎市内に一校なので、先生方、生徒、保護者の方々の日々の努力の積み重ねで、多くの「生徒が入学したい」または、「部活で頑張りたい」と思うようにお願いいたします。
◎悪い部分が改善されてきていると思う。今後もPTAが協力して、良くしていったらよいと思う。
◎因島に一つしかないので大切にしたい。
◎施設が充実しているのに生かされていない。
◎すべてが中途半端であるように思う。何か一つでも特色を出してもらいたい。

⑩入学させてもいい学校

◎統合から2年、地域と学校OBの努力で落ち着いてきていると思う。教職員も良く指導してくれていると感じる。子供を入学させたいと思う。
◎このようなアンケートを実施された因島高校に、前向きな姿勢と安定感を感じます。入学させますのでよろしくお願いします。
◎努力されていることは良く分かりますが、あまりにも学力の差があることや、先生方の指導にもう一ついい意見を耳にすることができないので、子供の入学に対し不安があります。

因島高校野球部監督として思う。

因島高校野球部監督　渡邊　興司

野球部監督に就任して、夏の大会まで3ヶ月。時間が少なすぎた。

生徒たちは、打って、走って、投げて、これを野球と思っていた。ヒットエンドランをして勝ちたいと思っている。練習中の失敗を反省しない。これでは勝てない。バンド、スクイズ、カットプレーの練習だ。

練習試合を誠之館高校に申し込んだ。ぼろぼろに負けた。ここからがはじまり。三原高校、忠海高校と練習試合した。7回までは、8対1か8対2で勝っている。7回裏か8回に毎回大失点で逆転負け。何が原因か。集中力が持ちきれない。こんなことで、夏の大会どうするんだ。集中力つけさせるために、400メートルトラックを10週走らせる。30メートルダッシュ2回を15本。3年は、誰も脱落しなかった。これはいけるかもしれないと希望を持った。

大会は舟入高校と対戦が決まった。試合になると打ちたがるがゴロを練習させた。フライは1回勝負、しかし、ゴロは3回勝負できる。①とりそこねる。②ファーストに投げるときに暴投。③ファーストのとりそこね。3回勝負有、開会式から帰って2時間練習。当日は、朝の5時集合して学校で練習してバスで広島へ。バスの中は、にぎやかでリラックス。安心、これなら、いけるかも。と思った。広島に近づくと、バスの中が静か、選手は緊張してきた。私が話したり、指示すると、「はい。はい。わかりました。」と返事はしているが、実は上の空だったのだろう。

球場に着いた。試合中は応援がにぎやかなのと、選手があがっているのか、監督の指示サインが届かない。あとで思えば、監督自身もあがっていたのかも。流れが違えば勝てたかもしれないと思うと、流れをいい方向にもってやれなかったと悔やまれる。選手はよくやってくれた。と思うと、選手に泣くなという前に自分が泣いていた。

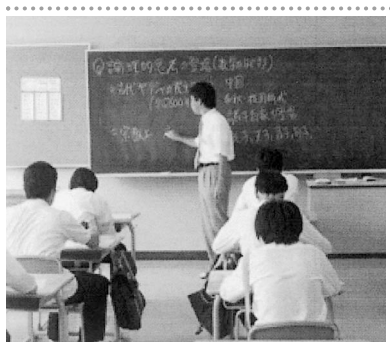
3年生が引退すると、残り1・2年生は、6人だけ。新しい選手を探して、勧誘。2人入部したが、一人足らない。3年生にきてもらって、練習を続けた。秋の試合の申し込みは既に申し込んだ。なにがなんでも試合までに誰か入部させるのだ。選手には「8人で、11人分がんばろうや。」生徒はそのつもりで燃えている、夏休み、毎日、朝9時半から練習。誰一人休むものはいない。

今年の中学生は、因島野球チームが、県優勝し中国大会に県代表として進出した。粒がそろっている。彼らが、因島高校に入学して、一緒に野球してくれれば、強いチームができる。その日を夢見て、「来年一緒に野球をやろう。」と中学校を回って勧誘している。

（7月31日　因島ロータリークラブでの講演より）

オープンスクール開催

8月27日オープンスクールが開催され、市内5中学の3年生201名の参加があり、模擬授業、学校紹介ビデオ、校舎クラブ活動の見学を行いました。



生徒指導講演会のおしらせ

10月17日15時から、因島高校体育館で「ウソの時代に訣別を」というテーマで、講演会が行われます。講師は元広島テレビキャスター木村隆司氏です。市民のみなさんもご参加ください。

吹奏学部の念願叶う

吹奏楽部保護者会　江藤真智子

野球の応援が終わり、夏休みは、非常勤講師の元広先生の指導で基礎練習を中心にがんばりました。部員の「大会に出場したい」という熱意が顧問の先生、元広先生に届き、11月1日尾三地区高等学校連合音楽会（しまなみ交流館）11月8・9日広島県高等学校総合文化祭（呉市文化ホール）に出場します。3月の定期演奏会に、市民のみなさんの前で演奏するためにも貴重な経験となります。

市民の投書箱

工業高校のなくなることと因島高校の将来

尾道工業高校が、入学生の募集停止を発表。本郷工業は、平成16年度より募集停止。日本は、資源のない国で、工業により、栄えてきたことを思いますに、そのための技術者を教育してきた高校がなくなるのは、残念です。

因島高校の生きる道は、近くの工業高校が、つぶされていく中で、昔の機械科の伝統を生かして、工業関係を重視したらいいと思います。

尾道や三原の進学高校に負けるなと、進学に力を入れているようですが、同じ道で勝負するより、独自の道が、生き残りの道です。すでに、今年、三原からも通ってきています。本郷工業や、尾道工業にいきたかった生徒が、集合できるように、その方向に力をいれたらいいと思います。

勉強漬教育に負けるな

尾道の進学高校は、夏休みでも、毎日学校に通わせています。因島高校では、そういう指導はしていません。それが、不適切、不親切のような意見、見解が多いですが、はたして、どうでしょうか。

学校が、子供の自由も取り上げ、自主性もなくする位、がんじがらめの、勉強漬け。頭でっかちの、がり勉少年が、柔軟な思考ができるのか。理科の実験もせず、自然の摂理も知らずに、ただ受験勉強のためにだけ、テキストを記憶する勉強、立派な大学に入ることだけが、人生の目標だといわんばかりの教育が本当に子供のためになるのであろうか。

小中学校教職員チーム、3位入賞、おめでとうございます

水軍祭りの小早レース、先生方は、何年も努力してきた甲斐があった。と、喜んでおられるようですね。

ところで、先生方に、お尋ねします。

その先生方が、本職とされている、学校では、どんな教育をされているのでしょうか？

成績のいいものを褒め称えれば、できないものが、悲しむ。徒競走もやると遅い子がかわいそうだ。みんな平等で、並んでかけっこしましょう。そういう教育が続き、こどもは、やる気を失い、学力も上がらない。学力は、全国平均を大きく下回る結果として、あらわれています。こどもたちには、がんばるな。という教育をしておきながら、自分たちの態度はどうなのでしょうか？

努力して少しでも、いい成績を上げるよう、切磋琢磨され、相手を打ち負かし、勝った喜びをあなたがたも感じるならば、こどもたちにも、そういう喜びを感じさせる教育をお願いしたいものです。

中学校の学力格差

先日、ミニコミ誌を見て愕然としました。市内中学校の、学力検査の結果が出ていたからです。同じ市立の中学にもかかわらず、ある教科の5段階評定は倍半分という結果に、怒りを覚えました。一体どうしてこのようになったのでしょう。子供のせいでしょうか。それとも先生の指導力が関係あるのでしょうか。

学校は保護者に説明責任があると思うのですがどうでしょうか。